

財政公表

市のお金の使いみちは？

市では、年2回財政状況を市民の皆さんにお知らせしています。今月号では、平成22年度各会計決算状況（5・6ページ）と平成23年度各会計予算の上半期執行状況（7ページ）をお知らせします。

田村市の3つのお財布

市のお金を出し入れするために、3つのお財布を用意しています。通常出し入れするお金は「一般会計」、そして「特別会計・公営企業（水道事業）会計」は、特定の事業のために使うお金を出し入れするためのものです。

特別会計も11の仕切りで分かれていて、それぞれの目的以外には使わないことになっています。

一般会計の決算の状況は

歳入決算額は221億6千698万円、歳出決算額は209億2千645万円となり、歳入歳出の差額のうち、平成23年度に繰り越した事業に充当した財源を差し引いた実質収支額は9億1千621万円となりました。

歳入の21・0%が自主財源

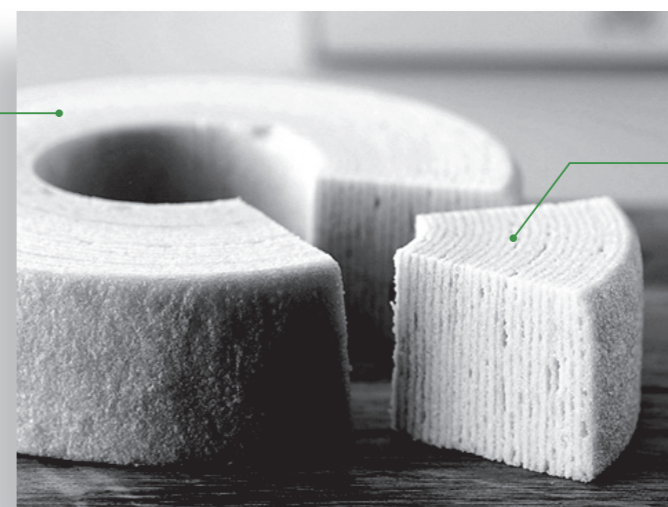
市に入ってくるお金（歳入）のなかには2つの財源で成り立っています。市が自主的に収入できる市税や使用料、手数料などが自主財源です。

これに対して、国や県から入るお金や借金でまかなうのが依存財源です。

市の一般会計歳入決算額に占める自主財源の割合は21・0%と低く、地方交付税などに大きく依存している状態です。また、経常収支比率は81・4%、財政力指数は0・33と依然として財政の硬直化が進んでいます。

景気の低迷による市税収入の減少が予測されること、少子高齢化対策にかかる経費の増加や公債費が今後も高い水準で推移していくことなどを考えると、本市の財政状況は依然として厳しいものになっています。

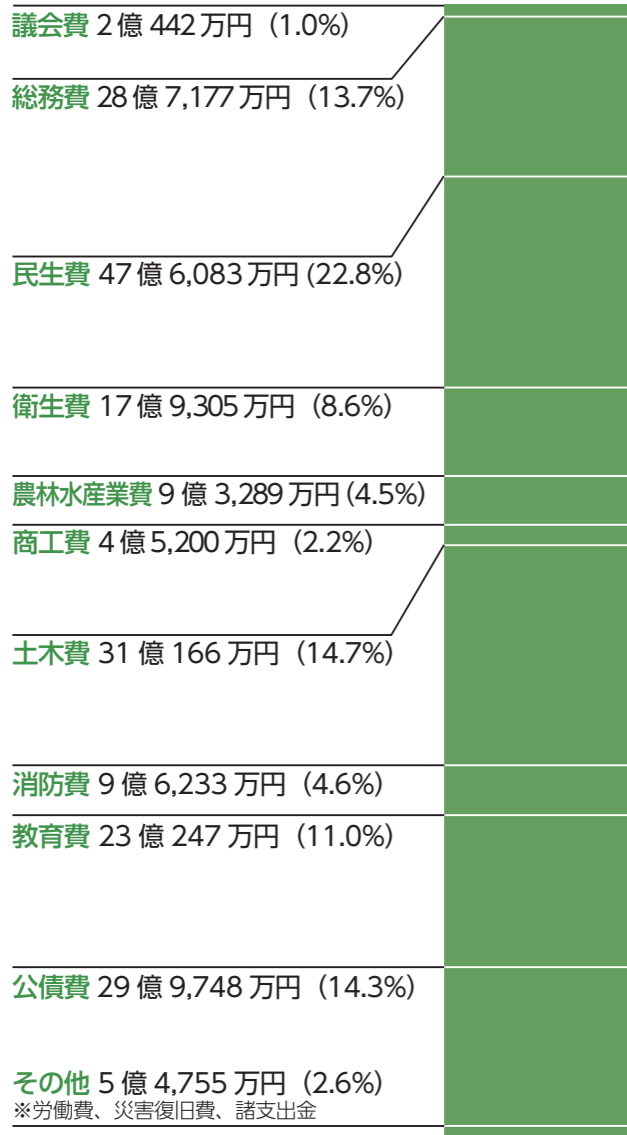
このような状況を踏まえ、なお一層の行財政改革、財源の確保、経費の削減等に努めながら「あぶくまの人・郷・夢を育むまち」はつらつ高原都市「田村市」の実現に向けた取り組みを進めていきます。



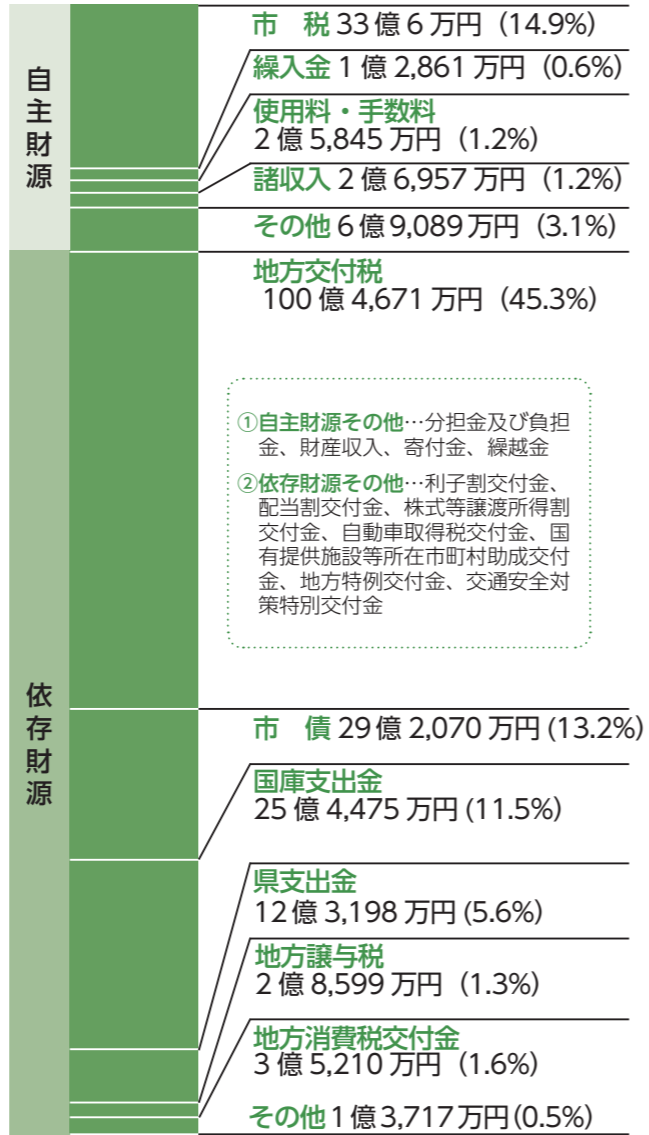
厳しい状況をふまえ、健全な財政運営に努めます。

1 平成22年度 一般会計の決算額内訳

歳出総額 209億 2,645 万円



歳入総額 221億 6,698 万円



用語の解説

（一）一般会計と特別会計

地方公共団体の会計には、一般会計と特別会計があります。一般会計は、福祉や教育、土木などの市の行政運営のうち、一般的な事業の経費を管理する会計です。特別会計は、特定の事業を行うために、特定の歳入・歳出を一般会計と区分して経理する会計です。

（二）歳入

地方公共団体が、その仕事を行うために必要な経費をまかなうものが収入で、その団体の会計年度における一切の収入を歳入といえます。

- 自主財源：市税や使用料、手数料などが市が自主的に収入できるお金
- 依存財源：地方交付税や国・県支出金、市債など、国や県から交付されるお金
- 市税：市民の皆さんから納めていただく税金
- 地方譲与税：所得税や自動車重量税などの国税の一部が譲与されるお金
- 地方消費税交付金：地方消費税の一部が交付されるお金
- 地方交付税：市の財政力に応じて国から交付されるお金
- 国庫・県支出金：特定の用途のために国や県から交付されるお金
- 繰入金：一般会計、特別会計、基金（市の預金）等の会計間で移動するお金
- 諸収入：市の預金の利子や貸付金の元利収入などのお金
- 市債：市の事業や国の施策により発行した借入金

（三）歳出

上の棒グラフでは、市が行う事業に必要な経費を目的別に分類しています。行政サービスの水準や行政上の特色を知ることができます。

- 議会費：議会運営のための経費
- 総務費：行政全般の事務や庁舎などの維持管理に使われる経費
- 民生費：高齢者や障がい者、子育て支援、生活保護などのために使われる経費
- 衛生費：各種健診や予防接種、ごみ処理、ごみ減量化の推進などに使われる経費
- 農林水産業費：農林業の振興や農林道の整備、土地改良事業などに使われる経費
- 商工費：商業の振興や商工業金融対策、観光振興などに使われる経費
- 土木費：道路の整備や維持補修、河川の整備、都市計画、市営住宅管理などに使われる経費
- 消防費：広域消防組合負担金や消防団運営、消防施設の整備、災害対策などに使われる経費
- 教育費：幼稚園、小・中学校などの教育、文化、スポーツの振興などに使われる経費
- 公債費：学校や道路など、たくさんのお金がかかるものは借り入れをして建設を行います。この借入金（市債）を返済していくために使われる経費
- その他：他の支出科目に含まれない経費をまとめたもの。各種基金への積立金などがあります。